

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
	○			

事務事業No 149 事業名 自然環境保全事業（メダカ等水生生物生息水路）

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		環境保全費	
	目		環境保全政策費	
	大事業		環境保全政策事業	
事項		自然環境保全事業		

分野別目標	4	自然環境と都市基盤が調和した快適なまち
政策	4	自然環境・資源循環型社会の形成
施策	2	自然環境の保全と創造
取組	1	生物多様性の保全

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	～		
関連個別計画	和歌山市環境基本計画		
担当課・担当課長 (Tel)	環境政策課	瀧谷 善範(435-1114)	
関連課			

「3つの磨き」との関連性

「市民力を磨く」	「基盤力を磨く」	「観光力を磨く」	該当せず	○
コミュニティーの充実	メリハリある都市づくりの充実	史跡和歌山城の充実		
市民の健康環境の充実	道路・公共交通網の充実	海を生かした観光シフトの充実		
総合的な子育て環境の充実	総合防災体制の充実	美味しい和歌山市イメージの充実		
その他	その他	その他		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする）ための事業か）	事業内容				
	希少な野生生物の生息地を保全地域として指定することにより、希少動植物の保護を図る。	保全区域（水路）を指定し、浚渫作業を行い、保全を図る。 ・指定水路…岡崎と薬勝寺の2箇所 ・薬勝寺の水路は浚渫等管理委託（薬勝寺水利組合）				
実施内容		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
		指定区域における保全作業の実施	指定区域における保全作業の実施	指定区域における保全作業の実施		

2 事業コスト

事業費 千円			平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
			予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		350	350	350	350	250	250	250			
	伸び率 (%)		-	-	0.0%		-28.6%		0.0%		-100.0%	
	人件費	常勤職員	240	403	380	209	240	203	240			
		非常勤職員										
	小計		240	403	380	209	240	203	240			
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源（税等）		350	350	350	350	250	250	250				
所要人数	常勤職員	0.03	0.05	0.05	0.03	0.03	0.03	0.03				
	非常勤職員											

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	浚渫作業日数				年度目標値	2	2	2	2	
					実績値	2	2	2		
	単位	日	全体目標値	全体目標達成度	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%		
					年度目標値					
					実績値					
成果指標	希少野生生物の保全区域の指定箇所（累計）				年度目標値	2	2	2	3	
					実績値	2	2	2		
	単位	箇所	全体目標値	3	全体目標達成度	66.7%	年度別達成度	100.0%	100.0%	100.0%
					年度目標値					
					実績値					
	単位		全体目標値		全体目標達成度	100.0%	年度別達成度			

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 事業の方向性

方向性	A 計画どおり事業を進めることが妥当	B 1 事業の充実に向けた見直し	担当課評価 (所属長記載)  <b>A</b>
	B 見直しのうえで継続 C 終了 D 休止 E 廃止	B 2 コスト削減・成果上昇 B 3 類似事業との統合 B 4 外部委託導入・拡大 B 5 受益者負担の適正化 B 6 終期設定 B 7 その他効率化	

担当課評価の根拠	継続して事業を実施することで、希少な動植物の生息地を保全することができる。
「見直し」 「改善」案 ※上記、担当課評価が「B」評価の場合のみ	